

## 一上腕の動作による Arm Hole の変化について一

名古屋市立女短大	高橋	春子
東海学園女短大	西条	セツ
瑞穂短大	○鈴木	昭子

1. 衣服に必要な要素の一つとして、機能性の問題がある。今回は両上腕の下垂の状態から、右上腕を上挙する運動により、Arm Hole を側面から観察した場合の皮膚面の移動状態をしらべたところ興味ある結果が得られたので報告する。

2. Arm Hole の皮膚面の動きはストロボ写真撮影法(東芝SS-4-A型装置、閃光頻度30サイクル)によって行なった。皮膚面にはあらかじめ、白色顔料をぬり、化粧用アイラインを用いて Arm Hole 位置に点でしるしをつけて、上腕の前挙、斜前挙、横挙の3動作につき、体側から観察したものを解析することとした。

3. 両上腕を下垂の状態から右上腕を上挙する動作において、Arm Hole の点の位置はストロボ撮影によって生じる軌跡によって、その「のび」「長さ」および軌跡を結ぶことによって生じた「形」は腋窩部において大きく移動をしている。

肩峰部位では皮膚、筋肉の移動による「ちぢみ」が大きく、肩関節の複雑な動きにより、偏位部分が多かった。このように肩峰点の部分、肩幅の部分は身体のわずかな動きにも影響があり、皮膚面の複雑な移動状態を知ることができた。このように裸身の場合の皮膚面は複雑な動きを示しているので、衣服装着時の機能と寛度(ゆるみ)の相関性を考慮して、被服構成上のなんらかの資料としたいものである。